

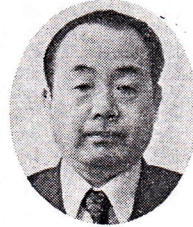
ユネスコ会員綱領

心の中に平和の守りを固めよう
すべての人間の尊厳を重んじよう
教育・科学・文化の発展に努めよう
民族間の疑惑と不信を除こう
世界を友愛と信頼のきずなで結ぼう

協会の充実・強化を

土台をしつかり固めよう

広島ユネスコ協会会長 永井滋郎



本年は、わが協会の創立から四年目に当たります。昨年度は創立三周年記念ということで、会員あがての努力により、協会はいちだんの成長をとげることができました。わたくしは、会長といたしまして、荒木 武名誉会長、内海 厳顧問をはじめ、全会員の皆々様に対し、心からお礼申しあげる次第であります。
本年は、さらに創立五周年に期待される飛躍的發展をめざして、じっくりと土台を固めるべき時かと存ぜられます。
すでに、よくご承知のように当協会は、昭和五十年から二か年にわたり、広島市立中央図書館奉仕課長末野 忍先生を事務局長に迎え、また、事務局を

同図書館内に設置させていただいて活動を展開してまいりました。協会が今日ある所以は、末野事務局長のご活躍のたまものであり、われわれ常日ごろ感謝しておりますところであります。このたび、末野先生のご勤務のご都合もあって、事務局長を辞退されましたので、先日もご案内いたしましたように、事務局を会長所在地（広島大学教育学部永井研究室）に移すことになりました。過去二年間にわたる広島市当局のご援助にお礼申しあげ、末野先生のご功績をたたえ、また、いろいろとご協力を得ました広島市中央図書館のご一同様に対し、深く深く謝意を表したいと思います。
もとより、事務局の組織や所在が変わりましたが、わが協会は従来同様、ユネスコ活動を積極的に推進してまいるのでありますので、今後とも、会員の

皆様が一層のご活躍とご協力をお願いいたします。
本年は、全国的には、民間ユネスコ活動発足三十周年、また地元広島では、原爆三十三回忌を迎えます。したがって、当協会は、日本ユネスコ協会連盟の国際的・国内的諸事業により積極的に参加すべきであります。また、計画されている広島長崎合同原爆資料展や被爆問題NGO国際シンポジウムに対しても、大いに協力すべきだと考えられます。
昭和五十二年度の協会の新役員も、先般五月七日の総会で決定されました。この新しい組織のもとで、青年部の活動を一層育成していくとともに、婦人の活躍を期待し、婦人部の結成が実現できればと思います。そのためにも、会員増大、維持会員の獲得など、協会を充実・強化していくべきであります。

広島ユネスコ協会 昭和52年度 役員決まる

Table listing the board members of the Hiroshima UNESCO Association for the 52nd year of the Showa era. It includes positions like 名誉会長 (Honorary President), 顧問 (Advisor), 会長 (President), 副会長 (Vice President), 理事 (Board Members), and 監事 (Supervisors).

市民みんなで成功させよう

開催迫まるNGO被爆国際シンポジウム

NGO（非政府間機関）主催の「被爆の実相とその後遺、被爆の実情に関する」国際シンポジウムが七月三十一日から八月二日まで、広島県医師会館で開催され、報告書、国連に対する勧告などが採択される予定です。

国際連合経済社会理事会の諮問機関として平和・宗教・科学・青年・婦人など、各種の国際的組織が結集され、非政府間機関（Non Governmental Organisations）の主要部分を占めています。このNGOで被爆問題国際シンポジウムを開催するわけです。

被爆国日本では、原水禁運動や被爆者援護運動が熱心になり広がりましたが、核兵器開発競争はやまず、大量の核兵器が保有されるにいたりました。原水爆完全禁止の実現のためには日本における核兵器廃絶の世論が文字どおり地球上の世論にまで拡張されなければなりません。被爆三十三回忌を迎える本年でさえ、被爆の実情すら世界の人びとにまだよく知られてお

りません。昨年広島・長崎の両市長が国連を訪問し要請され、また、各種平和団体の国連への要請もあって、国際シンポジウムが開かれることになりました。

行事の内容としては、第一段階（七月二十一日～三十日）は国内・国外の被爆問題専門家約四十名が、東京・広島・長崎で資料の調査や被爆者との面接および会議が行われます。第二段階（七月三十一日～八月二日）は国内・国外をあわせて四百名を超えない規模で、次の四つの問題をめぐってシンポジウムが開かれます。

- (一) 原爆の医学的・遺伝的影響、後遺。
 - (二) 原爆の社会的影響、とくに被爆者問題。
 - (三) 情報の普及、宣伝、平和のための教育。
 - (四) 核兵器の廃絶、放射能からの人類の防護（NGOの役割）。
- 第三段階として、八月五日に広島で、八月八日に長崎で、それぞれ大衆集会（広島では県立

体育館を予定）が開かれ、最終報告にあわせて核兵器廃絶のための国際行動に関する提起が行われることになっています。

NGO被爆国際シンポジウムは、被爆の実相とその後遺、被爆者の実情に関する、国際的規模による科学的調査・研究の成果が戦後はじめて報告される画期的なものであり、その報告書は明年開催が予定されている軍縮特別委員会に提出されることになっていきます。

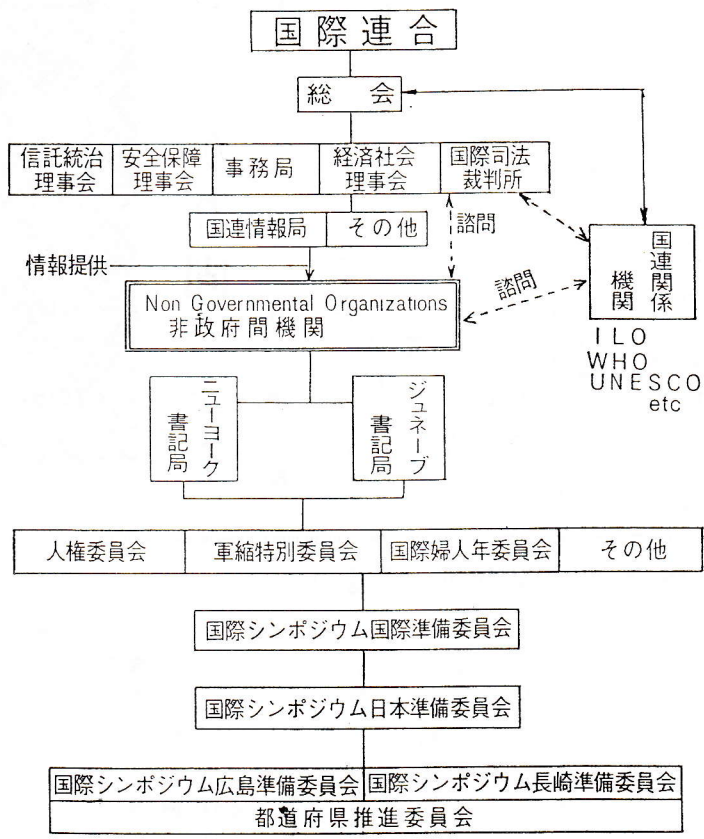
国際平和文化都市ヒロシマで開催されるこの国際シン

ポジウムを成功させる市民の会が、この四月に結成されて以来、永井滋郎氏と私は個人の資格でこれに参加し、青年部各位の協力も得て、ユネスコの精神を体してそれぞれの役割を担当し、成功を念願して今日にいたりました。会員各位も個人の立場で募金運動に自分のご援助を切にお願いいたします。

残念なことは、原水禁運動統一問題に関連して広島準備委員会の動きがもたしたことで

す。われわれ、国際シンポジウムを成功させる市民の会としては、国際シンポジウムの開催と統一問題は明確に切り離して考えていることを申ししておきます。

（本会顧問 内海 巖）



グランプリに「江清丸」

第二回ヒロシマ国際アマチュア映画祭受賞作品決まる 「市民オーケストラ」に日ユ協会会長賞

「平和と生きることの尊さ」

をテーマにした映像による平和祭―第二回ヒロシマ国際アマチュア映画祭(委員長 荒木武広島市長)は、このほど新藤兼人(映画監督)氏らで審査を行い、グランプリ「江清丸」など二十一編の受賞作品を決定した。受賞作品は、この八月、広島、東京などの各地で発表上映される。

日本ユネスコ協会連盟、広島市などが主催して第一回映画祭をスタートさせたのは、被爆三十周年を迎えた一九七五年。これには海外十六か国が参加して改めてヒロシマの重みを内外に実証した。そして、第一回の優秀作品は昨年バリのユネスコ本部で開かれたバリ日本文化祭にユーカー劇などと並んで参加し、好評を博した。

第一回の成果を受けて、今回は海外から十七か国、インド、パナマ、ブルガリア、スイスなどの新顔が目だつ幅広い参加となった。作品数は内外合わせて一六〇編。原爆を語るもの、農民一家の暮らしをつづるもの、

あるいは自然と人びととの交歓を描くものがあり、映画祭のテーマをめぐってアマチュアの手になる、草の根、映像がさまざまな光彩を放って審査員の目を飽きさせなかった。応募者の世代も、黒人問題を扱った米フロリダ州の高校生から七十歳までと広く、女性の参加もあった。

グランプリに輝く「江清丸」の一場面



審査は、新藤、瓜生忠夫(評論家)、山田和夫(映画評論家)氏ら専門家に加えて、日ユ協代表の内海巖中央委員、飯島宗一前広島大学長の手で行われた

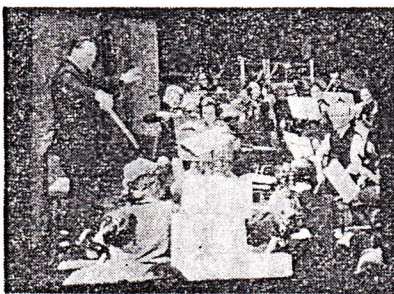
(日ユ協から川喜多かしこ氏にご参加いただく予定だったが、きわめて残念ながら、ご本人の都合で実現しなかった)。「第一回に比して質的に向上した。とりわけ外国作品の水準が上がった」というのが審査員の一致した講評。「日本はセンチメンタル。外国は骨太い」など、審査を離れたところで、お困りや民族性に関する感想が聞かれたのも国際的行事ならではのことで、国際理解のうえでも興味ある審査風景を呈していた。

さて、栄えのグランプリに輝いたのは高校教師、森永泰輔氏(四十七歳)のドキュメンタリー「江清丸」(八ミリ、カラー、20分)。第一回の受賞作品「巴峡に生きる」を自ら携えてバリ日本文化祭に参加した、その人。作品は、「江の川の自然を守る」の横幕を掲げて広島県三次市から島根県江津港まで百二十

*江の川の川を筏で下った教師仲間四人の記録。自然破壊をにくみ、心からふるさとを愛するために撮った、ふるさと作品

がグローバルな備しで金的を射止めたのが面白い。
総理大臣賞「一俵の粟」は、老夫婦(七十九歳と七十歳)きりの農家に伝わる一俵の粟にまつわる話。飢饉に備えた先祖の悲しい知恵が、粟を代々伝えてきた。戦場で餓死した一人息子と先祖にいまでも粟モチを供える夫婦の姿は、見る者の心を離さない。

日本ユネスコ協会連盟会長賞の「市民オーケストラ」



日本ユネスコ協会連盟会長賞「市民オーケストラ」は、イギリスはクロイドンの町のオーケストラの活動を描く16分映画。市民が誇るオーケストラの、50歳代の誕生記念演奏会を克明に記録した佳作である。
なお、受賞作品は八月四・五・六日(広島)、同八日(長崎N

BCビデオホール)、同十四日(TBSホール)、同十九日(大阪朝日生命ホール)、一般公開(無料)されるほか、各地ユネスコ活動に貸し出すことになっている。問い合わせ、申し込み先は広島市基町二一三中国放送内ヒロシマ国際アマチュア映画祭実行委員会(千七三〇 〇八二二二二一四一九一)。
受賞作品は次のとおり。

- ▽ヒロシマグランプリ・広島市長賞「江清丸」森永泰輔(広島)
 - ▽総理大臣賞「一俵の粟」武田方(愛媛)▽外務大臣賞「平和の前後に」ブルガリア▽文部大臣賞「神戸人形」熊谷鉦俱寿(大阪)▽広島県知事賞「美の陰に」安藤治(岐阜)▽長崎市長賞「軍事パレード」ブルガリア▽日本ユネスコ協会連盟会長賞「市民オーケストラ」イギリス▽中国放送賞「石仏の詩」梅田詮(広島)▽中国新聞社賞「海峽の鎮魂」池尚浩(韓国)▽朝日新聞社賞「再起」坂本光三(東京)▽毎日新聞社賞「干潟の海」日下部渡(福岡)▽入選(十編)「黒人ジョー」アメリカ、「おのおの愛国者」スイス「ガーナからきたフローレンス」西ドイツ、「地上に花を」ポルトガルほか。
- (本会理事 亀井 章)

去る三月行われた青年部合宿において、夜を徹して今後の青年部の活動方針が討論されました。今年には役員も一新され、結成以来二年間の活動について徹底的に反省がなされました。

「原爆について考える」、「東アジアについて」、「児童画展」等々、一応の成果をあげることができましたが、それらは言わば単発的。限らないユネスコ運動展開のためには、「もっと恒常的・継続的にこれらの問題と取り組むべきではないか」ということです。

こうした中で提案され、重点



東広島市にユネスコ青年部を結成

去る五月、東広島市にユネスコ青年部が結成された。

これは、永井会長の熱心なお骨折りにより結成の運びとなったもので、現在会員は、学生を中心に十六名、月一回の定例会では、英会話を中心とした研究会、学習会がもたれている。

さらに、絵画・レクレーションなど幅広い活動が計画され

活動として取り上げられたのが「ユネスコ・コンパニオン」です。

これまで青年部では、平和について考え、平和を推し進める目的で原爆講座を開催してきました。

「ユネスコ・コンパニオン」スタート

原爆図書 の 読書会も

青年部活動のあらまし

た。そして昨年は、留学生にもヒロシマの体験、それがもつ世界的意味について知ってもらおうと、講座の中に英語による講演を組み入れたりしてきました。

そうした中で、今年には「留学生もさることながら、ヒロシマを訪れる外国青年の観光が単なる物見遊山に終わるのでなく、また原爆ドームが単なるモニユメントとしてでなく、そこからヒロシマの訴えようとしていること、ヒロシマの意味に少しでも触れてもらいたい。そして、それぞれの立場で平和とは何かを感

英語でヒロシマを伝えるために英文の輪読会も行っています。そして、今その輪は除々に広がりつつあります。

今後とも青年部では「ヒロシマ―平和」の考えのもとに、継続的な活動を展開して行く計画です。 (今村信昭記)

ており、今後の発展が期待される。

第三回 「世界の児童画展」を開催

当協会青年部は、広島市教育委員会、広島平和文化センター後援のもとに、「世界の児童画展」を、八月二日から市中央図書館で開催する。

これは、子どもたちに絵をつ

うじて外国の文化、生活に触れる機会を与えるとともに、国際理解・国際平和の必要を認識してもらおう場にしようとして、毎年、青年部が企画しているもので、今年で三回目を数える。

今回は、日ユ協連、長崎ユ協からの絵画提供のほか、青年部が、ドイツ・ルートヴィヒシャーフェンの青年団体と交換した絵画を加えて展示する。青年部では、この機会にルートヴィヒシャーフェンの青年と児童画の交換をおとした国際交流を計画している。

展示ホール

「世界の中のヒロシマ」

第二回論文・作文・ポスター・書を募集

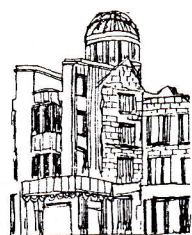
広島平和文化センターでは、

広島ユネスコ協会などと共催して、平和に関する論文、作文、ポスター、書を募集している。これは、青少年に平和の尊さについて考える機会を与えることによつて、人類が互いに助け合い、戦争のない平和な世界を創る豊かな心を養うことを目的にしたもので、昨年に引き続きの募集である。

募集要項の概要はつぎのとおり。

資格/論文Ⅱ一般 作文・ポスター・書Ⅱ小中高校生。

テーマ/論文「平和と人間」、作文「楽しい思い出」(小学低学年)ほか、ポスター「世界平



和」を表現するもの、書「とも」友」(小学低学年)ほか。締め切り/九月十五日。

要項や応募方法などのくわしいことは、広島平和文化センター「論文・作文・ポスター」募集係まで。電話四一五二四六